

Changes in Characteristics of Gemral Maraton Participants : Comparison between the 6th and the 16th Fukui Marathon

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2012-05-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 松澤, 甚三郎, MATSUZAWA, Jinzaburo メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10098/5394

大衆マラソン参加者の意識と状態 —福井マラソンの第6回大会と第16回大会の比較—

松 澤 甚三郎

保健体育教室

(平成8年10月15日受理)

Changes in Characteristics of General Marathon Participants —Comparison between the 6th and the 16th Fukui Marathon—

Jinzaburo MATSUZAWA

Department of physical Education

Abstract : The purpose of this study was to compare the participants in the 6th and 16th Fukui Marathon, and then to offer useful suggestions for improving the management of the meet and for general coaching procedures of jogging.

The subjects of this study were drawn from the 6th and the 16th Fukui Marathon entrants (5812 and 6868 respectively) and the number of questionnaires answered was 3233 and 2567 respectively. The results were as follows :

- 1) The number of female participants and middle and advanced-aged participants increased. The number of female, middle and advanced-aged participants in the long-distance event increased significantly.
- 2) The number of participants who had the following features increased : a) females who were not from Fukui City, b) those who had confidence in their physical strength and ability to play sports, and c) those who answered, "People around me were cooperative."
- 3) Although the percentage of participants who raced without practice before the race decreased, as many as 20% of the participants in the 16th meet had not practiced before the race. As for practicing habits, those who "practiced alone" and "practiced at night" increased in number.
- 4) An increasing number of participants decided to enter a race when they saw the previous race. Many participants pointed out "other reasons" as the motivation to participate. The number of participants who "would like to participate again" increased.

Key Words : popular marathon, jogging, runner

1. 目的

近年、各地で大衆マラソンとか、健康マラソンとか呼ばれているロードレース大会が盛んに行われている^{(1),(2)}。そして、県内でもブームになり始めてから10年以上がたとうとしており、最近、そのブームに陰りがみられる。

そこで、本研究の目的は、県内最大の大衆マラソン大会である福井マラソンの第6回大会と第16回大会の参加者の意識と実態を比較し、この傾向を明らかにし、今後の大会運営及びジョギングなどの指導に立てることである。

2. 方法

調査対象者は、第6回及び第16回福井マラソンに参加申し込みをした5812名及び6868名であった。これらの申し込み者に、大会の約1週間前に調査用紙を送り、大会当日回収した。

表1は、これら大会の申込み者数、出走登録者数、出走登録率（%：申込み者に対する割合）、調査回収数、回収率（%：申込み者に対する割合）である。

調査項目は参加者の種目、年齢、住所、健康・体力自覚意識、トレーニング状況、大会参加のきっかけ、理由などで、これらの項目について、性別に第6回大会と第16回大会を比較した。

比較には、両大会間の各項目のカテゴリの度数の差異の検定も行った。検定はカイ二乗検定で行

い、有意水準5%を*、1%を**で示した。

表1 参加申し込み者数、登録者数、率(%), 解答者数、率(%)

大会名		第6回大会					第16回大会				
		申込み	登録者数	登録率	解答者数	解答率	申込み	登録者数	登録率	解答者数	解答率
男子	5 km	2752	2492	90.6	1361	49.5	3187	2790	87.5	1063	33.4
	10 km	1278	1143	89.4	811	63.5	1194	1070	89.6	490	41.0
	20 km	532	497	93.4	345	64.8	619	551	89.0	299	48.3
男子合計		4562	4132	90.6	2531	55.5	5000	4411	88.2	1852	37.0
女子	5 km	1181	1078	91.3	646	54.7	1633	1469	90.0	618	37.8
	10 km	47	41	87.2	36	76.6	148	127	85.8	63	42.6
	20 km	22	20	90.9	14	63.6	87	75	86.2	43	49.4
女子合計		1250	1139	91.0	702	56.2	1868	1671	89.5	724	38.8
総合計		5812	5271	90.7	3233	55.6	6868	6082	88.6	2576	37.5

3. 調査結果の概要

表2は男女の第6回大会と第16回大会の参加者の各項目についてのカテゴリの度数の差異の検定結果である。検定の結果、男子の項目「3：参加者の住居地域」以外の全ての項目でカテゴリの度数の占める割合に有意な差異が認められた。

大衆マラソン参加者の意識と状態 —福井マラソンの第6回大会と第16回大会の比較—

3. 1 申し込み者数について

3. 1. 1 男子と女子の申し込み者数の比較

参加者の申し込み者は、第6回大会：5812名、第16回大会：6868名で、第16回大会が第6回大会より約1000名増加していた。それは、男子が約500名、女子約500名の増加で、女子の増加率が高かった。また、第6回大会の女子の申し込み者数は、1250名、男子4562名で、女子の占める割合は全参加者の21.5%であったが、第16回大会では、27.2%に参加者が増加していた。

このように、女子の参加者の増加傾向が認められ、今後男子に迫ると推測される。このことは、大会運営に当って、トイレ及び更衣室の問題など今迄の大会とは異なった問題が出てくるので、その対策の必要性が指示された。

3. 1. 2 申し込み種目について

図1は、第6回大会と第16回大会の申し込み種目のカテゴリーの度数の占める割合である。

第6回大会では男子5km：2752名（男子の60.3%）、女子1181名（女子の94.5%）、第16回大会では男子3187名（63.7%）、女子1633名（87.4%）でいずれの大会も大部分が5kmの参加者であるが、5kmの占める割合では、男子は増加、女子は減少傾向が認められた。

その分、女子では10km、20kmが増加しており、参加者数では、10kmで約3倍、20kmでは約4倍、第16回大会参加者が第6回大会より増加している。男子では逆に10km参加申し込み者数でも、その占める割合でも第16回大会が減少している。女子の参加者の増加と距離の長い種目の参加者の増加は、一般的傾向^{(1),(2)}で男子との差が少なくなる傾向にある。

表2 参加者の意識と実態のカテゴリーの度数の差異の検定結果：
数値はカイニ乗値（*：P<0.005, **：P<0.001）

No. 項目名	男子	女子
1. 参加種目	21.27**	42.87**
1-1. 参加種目5km	82.12**	97.09**
1-2. 参加種目10km	155.33**	////////
2. 参加者の年齢	227.24**	92.27**
3. 参加者の住居地域	7.51なし	16.61**
4. 参加者の職業	319.73**	546.45**
5. ジョギングに対する理解	58.15**	22.13**
6. 自由時間が取れるか	15.23**	11.43 *
7. 体力に対する自信	288.51**	103.55**
8. スポーツの腕前自己評価	39.44**	23.44**
9. マラソン以外の運動実施状況	157.45**	13.96**
10. トレーニングの頻度	96.93**	19.16**
11. ジョギングする時刻	28.36**	21.06**
12. ジョギング仲間	127.70**	30.56**
13. 大会参加のきっかけ	603.98**	159.46**
14. 大会参加の理由	132.24**	61.07**
15. 今後の大会参加の意志	9.85**	20.90**

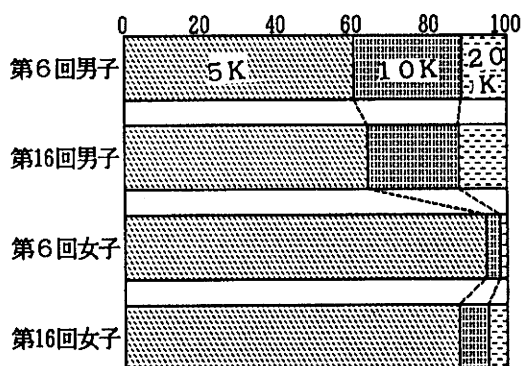


図1 申し込み種目の参加者の占める割合

3・1・3 大会参加者の年齢について

図2は、6回大会と第16回大会の各年代の参加者の占める割合である。

この図から明らかなように、40才以上の参加者は、第16回大会が第6回大会よりその占める割合で、男子で約倍、女子で倍以上と増加している。40才以上の参加者数では、第16回大会が第6回大会より男子約3倍、女子約5倍に増加している。

このように、中高齢者の増加、中高齢者の距離の長い種目の参加者の増加傾向は大会運営上安全という点で大きな問題をはらんでいる。現在では、事故については自己の責任ということで署名・捺印ですませているが、今後の大会運営の大きな問題となると推測される。事故が起きてからでは遅いので、運動負荷心電図異常なしの健康診断書の提出も考えられる。また特に、大会開催の気温が高い場合水分の補給箇所を増加すること、安全監視委員を設けるなど安全対策に最大の注意が必要と考えられる。

一方、10才代の大幅な減少が認められる。10才代の減少は、中学生の5kmの参加が教育上問題となり、中学生5kmの部がなくなり、10才代に1本化されたことが主な原因と推測される。

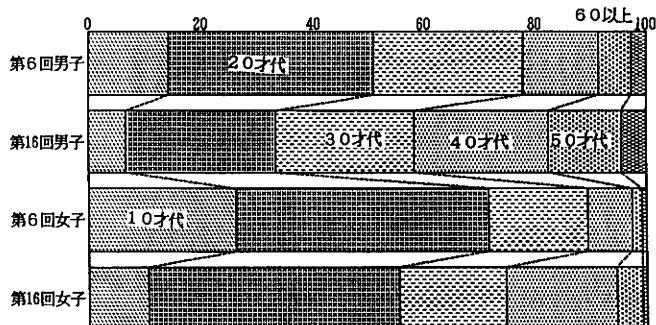


図2 6回大会と第16回大会の各年代の参加者の占める割合

3・1・4 出走登録率について

大会約1か月前に申し込みをし、大会当日出走届を出し、参加賞、プログラムなどを受け取る人数の申し込み者に対する割合：出走登録率(%)は、全員では第6回大会が90.7%、第16回大会88.6%で、第16回大会が6回大会より低下が認められた。この出走登録率は、他の大会でも同じ⁽¹⁾⁽²⁾で、他の大会では85%~90%が殆どであった。このように参加申し込み者の10人に一人が当日参加していないことが明らかになった。

3・2 参加者の住居、職業について

図3は参加者の住居地域のカテゴリーの度数の占める割合である。第6回大会においては、福井市内が最も多く、男女とも約半数を占め、次いで、嶺北、県外、嶺南の順であったが、女子の方が遠隔である嶺南、県外の参加者の占める割合が少ない傾向があった。第16回大会の女子参加者は、男子とは逆に福井市内の参加者が少なく、遠隔地が多くなる傾向にあり、男子との差が少なくなる傾向にある。

参加者の職業は、第6回大会は男女とも10才代は殆どが生徒であったが、第16回大会では生

大衆マラソン参加者の意識と状態 —福井マラソンの第6回大会と第16回大会の比較—

徒・学生が減少している。これは主に中学生の参加制限によると思われる。また、女子では、「事務」、「主婦」の占める割合が減少、その分「専門管理」、「労務」、「販売・その他」などが増加、男子では、「販売・その他」の参加者が増加し、第16回大会の方が第6回大会より、参加者の職業に多様化が認められた。

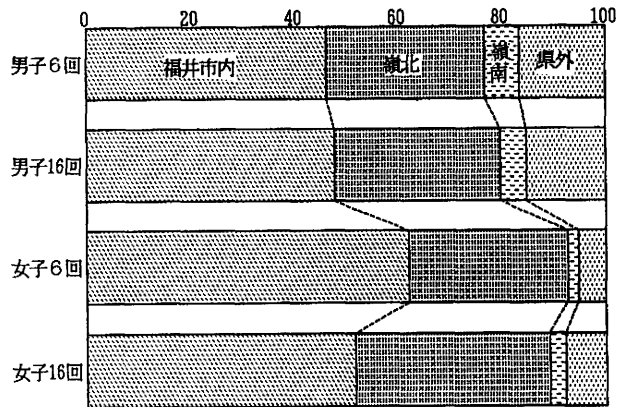


図3 参加者の住居地域のカテゴリーの度数の占める割合

3. 3 参加者が走ることに對する周囲の

理解、自由時間について

図4は、「走ることに對する周囲の理解」の質問に對するカテゴリー度数の割合である。男女とも「理解してくれている」と答えた者の割合が増加しているが、逆に「理解していない」と答えた者も増加している。今後、理解していないと答えた理由についての調査が必要に思われた。

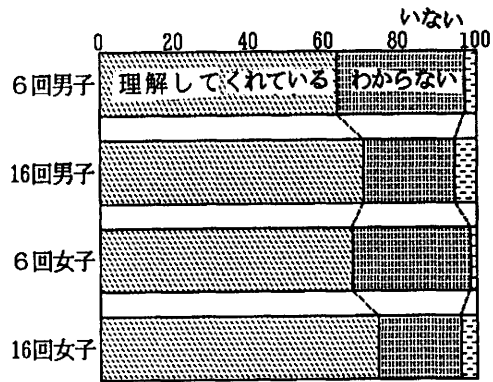


図4 「走ることに對する周囲の理解」の質問に對するカテゴリーの度数の割合

図5は「自由なことができる時間はどれくらいとれますか」という質問に對するカテゴリー度数の割合である。

男子では昼でもとれるという者の割合が少なく、土日ならとれるという者の割合が高くなる傾向にあったが、女子は夜ならとれると答えた割合が少なく、その分月に1~2以下しかとれないと答えた者の割合が高くなる傾向にあった。男子で週2日制の効果が認められるが、女子では認められず、女子では10年前より

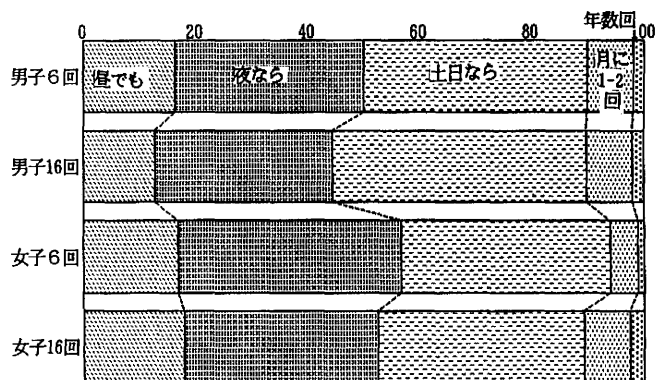


図5 「自由なことができる時間はどれくらいとれますか」という質問に對するカテゴリーの度数の割合

自由時間がとれない傾向が伺えた。

3. 4 参加者の体力及び運動技能の自覚について

図6は「体力に自信がありますか」という質問に対するカテゴリー度数の割合である。

両大会とも、男子の方が女子よりも「自信がある・少しある」と答えた者の占める割合が高い傾向にあった。男女とも第6回大会より第16回大会が「自信がある」と答えた者の占める割合が増加し、その分、男子では「分からない」、女子では「分からない・あまりない」

の占める割合が少なくなっている。これは、一般人の傾向と異なり注目すべき結果である。

現在の腕前についての質問でも、体力と同様、両大会とも男子の方が「上手と思う」と答えた者が高く、その分、「分からない・下手と思う」と答えた者の割合が低い傾向にあった。男子では第6回大会より第16回大会が「非常に上手」と答えた者の占める割合が増加し、その分「分か

らない」と答えた者の割合が減少傾向、女子は「上手と思う」が増加、その分「思わない・下手と思う」と答えた者が少なくなる傾向が認められた。

この様に、参加者が体力及びスポーツ技能に自信がある者の参加者が増加傾向にある。これは、体力及びスポーツ技能に自信がある者が参加するようになったのか、練習で自信がつき、このように答えるようになったのか明らかではないが、どちらにしても望ましい傾向なので注目に値する結果である。

3. 5 参加者のトレーニングについて

図7は、大会前2か月間におけるトレーニングの頻度の質問に対するカテゴリー度数の割合

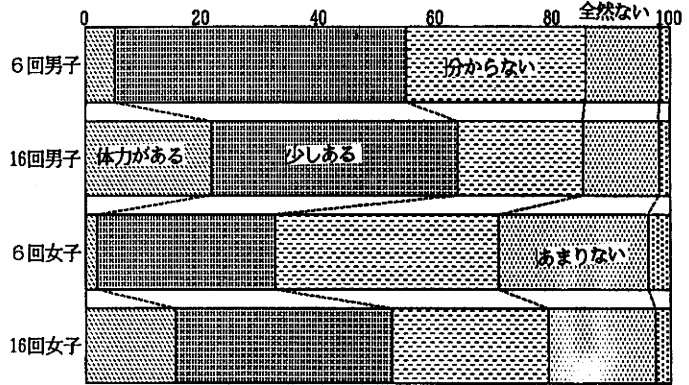


図6 「体力に自信がありますか」という質問に対するカテゴリーの度数の割合

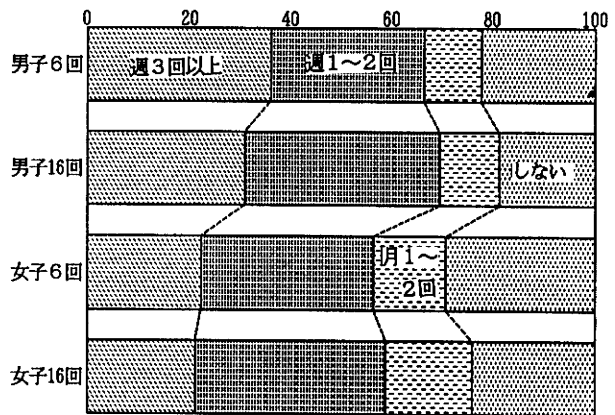


図7 練習の頻度の質問に対するカテゴリーの度数の割合

大衆マラソン参加者の意識と状態 —福井マラソンの第6回大会と第16回大会の比較—

である。男女とも第6回大会より第16回大会が「練習をしない」と答えた者の割合が少なくなっており、望ましい傾向と推測される。しかし、10年経っても練習しないで参加した者が男子18.5%、女子23.4%もいることは、今後の課題であると思われる。また、大会運営に当たって、練習しないで参加している者が約5人に一人いることを念頭に入れて、安全対策に力を入れる必要があると思われる。

図8は、「トレーニングをする時刻は主にいつですか」という質問に対するカテゴリ度数の割合である。

男子は第6回大会より第16回大会の方が、「昼と夜」走る者の割合が高い傾向にあり、女子は「夜」走る者の割合が高く、その分「朝」練習する者が少なくなる傾向にあった。「夕方」と「夜」練習する者が約70%もあり、ますますこの傾向が高くなる傾向が見られた。

図9は、「あなたはどのような人と最も良く練習しますか」という質問に対するカテゴリ度数の割合である。

両大会とも男子は一人でトレーニングする者の割合が高いのに対し、女子は家族、仲間、近所など他人と共にトレーニングをする者の割合が男子より高い傾向にあった。この傾向は、10年経っても変わらないが、男女ともますます自分一人で練習すると答えた割合が高く、グループで練習する者の割合が少なくなる傾向にある。

以上のことから、夕方と夜練習する者、女性、中高齢者、一人で練習する者などが増加傾向にあることが明らかなので、照明のある練習場の必要性が示され、軽く走れる程度の照明のある練習場所の設置は大会主催者の今後の課題である。

以上のことから、夕方と夜練習する者、女性、中高齢者、一人で練習する者などが増加傾向にあることが明らかなので、照明のある練習場の必要性が示され、軽く走れる程度の照明のある練習場所の設置は大会主催者の今後の課題である。

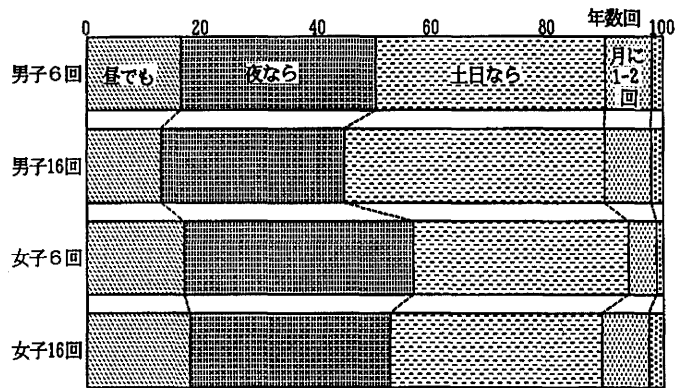


図8 「トレーニングをする時刻は主にいつですか」という質問に対するカテゴリの度数の割合

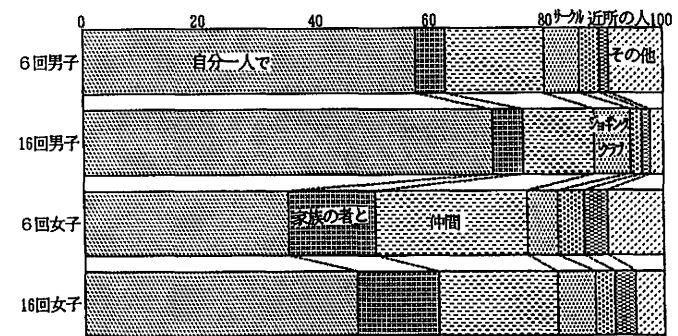


図9 「あなたはどのような人と最も良く練習しますか」という質問に対するカテゴリの度数の割合

3. 6 大衆マラソン大会参加について

図10は「大会参加のきっかけ」についての質問に対するカテゴリー度数の割合である。大会参加のきっかけは、第6回大会では男女とも「新聞・ラジオ」、「人の話」、「その他」と答えた者の割合が大部分であった。「実際

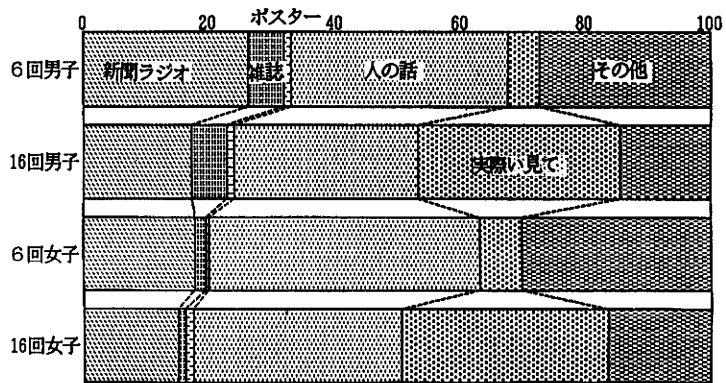


図10 「大会参加のきっかけ」についての質問に対するカテゴリーの度数の割合

走っているのを見て」参加した者は、男子では第6回大会は5.1%であったが、第16回大会は32.7%と26.6%の増加、女子では7.0%から33.2%と26.2%の増加で、男女とも約26%の大幅な増加であった。

最近、マラソンコースは交通事情などで段々人のいないへき地に追いやられているが、車を止め、街の真ん中を走ることの重要性が示された。大会開催者は、「なぜ車を止めて、街の真ん中を走る必要があるのか」、もう一度原点に戻って考えると共に、「マラソン大会の開催は単に走るということだけでなく、交通地獄、環境汚染など現代文明に対する批判の表現であり、人間回復の戦いでもある」ということも確認すべきと考える。

図11は、「大会参加の理由」の質問に対するカテゴリー度数の占める割合である。

男女とも「走る喜び・生きている感じを求めて」と答えた者の割合が男子：29.6%から16.0%，女子31.2%から15.8%と10年間で減少、その分、男子

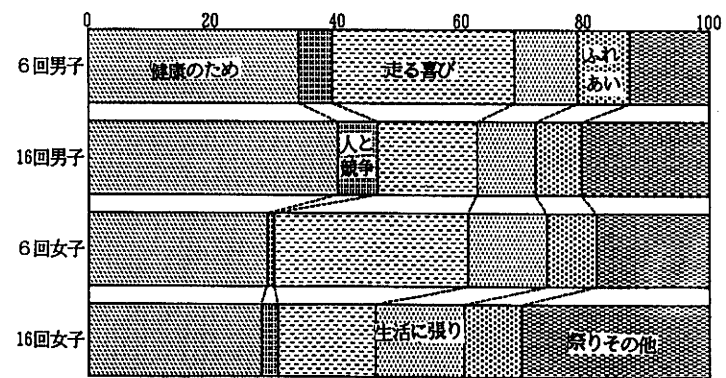


図11 「大会参加の理由」の質問に対するカテゴリーの度数の占める割合

で「健康や体力の維持増進」、「お祭りとして・その他」が、女子では「お祭りとして・その他」が増加した。

このように、大衆マラソンの参加理由の多様化が認められ、中山らの報告⁽²⁾と一致している。「走る喜び・生きている感じを求めて」が少なくなった理由については今後の調査が必要と思われる。

大衆マラソン参加者の意識と状態 —福井マラソンの第6回大会と第16回大会の比較—

図12は、「あなたはこれからも続けてマラソン大会に参加しますか」という質問に対するカテゴリ度数の占める割合である。

男女とも第6回大会より第16回大会が、「今後とも参加したい」と答えた者の割合が高く、「分からない」と答えた者の割合が少なくなる傾向が認められ、大会参加者の固定化が認められた。大会要項を前回までの参加者に発送することが効果的であることが示された。

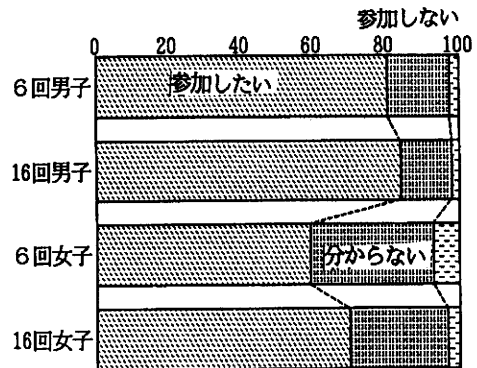


図12 「あなたはこれからも続けてマラソン大会に参加しますか」という質問に対するカテゴリの度数の割合

4. まとめ

本研究の目的は、県内最大の福井マラソンの第6回大会と第16回大会の参加者の参加種目、年齢、体力自覚意識、大会参加のきっかけ、参加理由、練習の実態などを比較し、その傾向を明らかにし、大会運営、ジョギング指導などに役立てることであった。

調査の結果は、次のように要約できる。

- (1) 女子及び中高年参加者の増加傾向が認められた。特に、女子中高年及び距離の長い種目の参加者の増加が顕著であった。このことから、トイレ、更衣室など女子に対する対策及び高齢者に対する安全対策の必要性が示された。
- (2) 福井市以外の子参加者の増加、体力及びスポーツに自信があると答える者の参加者が増加、周囲から走ることが理解されている者の参加者が増加傾向にあった。自信のある者の増加は、走ることで自信を得たのか、自信がある者が参加するようになったのかは明らかでないが、望ましい傾向と思われる。
- (3) 練習状況では「しないで参加した者」の割合が少なくなっているが、10年経っても練習しないで参加する者が、約20%もいることは問題で、今後指導が必要と思われる。
- (4) 練習は「仲間」とより「一人で」行い、「夜練習する者」の占める割合が高くなる傾向にあった。「主に夕方と夜に練習している者」は、男女とも約70%にもなること、女子、中高齢者、一人で練習する者の増加からも、軽く走れる程度の照明のある練習場の設備がぜひ必要と思われる。
- (5) 大会参加のきっかけは「実際走っているのを見て」と答えた者の割合が男女とも約数%から約33%増加し、車を止めて街の真ん中を走ることの重要性が示された。
- (6) 今後の大会参加では「今後も参加したい」と答えた者が多くなる傾向にあり、参加者は固定化傾向にあった。このことから、大会要項を前回までの参加者に送ることが効果的であることが明らかとなった。

松澤 甚三郎

(7) 大会参加の理由では「走る喜び」が減少し、「その他」と答えた者の割合が増加し、参加理由の多様化が認められた。今後は参加理由、年齢、性、職業など参加者が多様化傾向にあり、この多様化にどう答えて行くかが、大会主催者、行政などの今後の課題と思われる。

参考文献

- 1) 松澤甚三郎. (1991) 「県内大衆マラソンの申込者, 参加者, 完走者について」, 北陸体育学会紀要, 第27号, 49~58p.
- 2) 松澤甚三郎. (1991) 「県内大衆マラソンの申込者について」, 北陸体育学会紀要, 第26号, 1~10p.
- 3) 中山鹿次 (1984) 「ランニング大会における開催意識, 運営の多様化について」, ランニング研究, 第5巻1号, 75~82p.